

延東義太さん



孫がおるんやけど、ちよつとは
教えてみようかと思うんやけど
テレビの前でな、こうやって・
（ゲームしてる）

これだけちやんとやってきた山だけけど・・・。

延東義太（えんどう・よし太）さんは、西栗倉を代表する山主の一人です。手塩にかけて我が子のように森を育ててきました。延東さんはおじいちゃんがすぐく山に熱心な方で、お父さんが早くに亡くなられて一代飛び越えて山を引き継がれました。子供の頃から囲炉裏端でこんこんと山の話をおじいさんから聞かされて育ってきて、気がついたら自分も一生懸命山を育てていた。

延東さん自身は郵便局員で、平日は郵便局の仕事をして、土日とか休みになると山に行つて、山の手入れをするということをやつと続けてこられています。延東さんが「郵便局員としてもらったボーナスのほとんどを山につき込んだ」つてよく言われるのですが、時間もお金も森作りに投資してきて、奥さんには「これだけちやんとやって

きた山は、経済的にも報われる時が来る」つて言つて山につき込んできたけれど・・・。結果はボーナスが返ってくるような状況ではない。おじいさんからいろいろ聞いて、おじいさんの想いを受け継いでやってきたけれど、延東さんの山への想いはこのままだと誰にも引き継がれてはいかない。おじいさんの代から地道に積み重ねてきた森づくりの努力が、経済的に報われない。さらにその努力を伝え受け継ぐ相手がいない。たくさん山の山主さんとそのご先祖の想いが、森の中に眠ったままになってしまつています。

山に眠る想い。

「話す間がない」と延東さんは言います。

どれだけの苦勞を積み重ねてこれだけの森をつくつてきたのか。昔のように自然に囲炉裏端でおじいさんの話を聞きながら子供が育つというような状況ではない。それでも延東さんは、大切に育ててきた森は、将来自分が死んだあとでも、子供や孫にとつて何か助けになつてくれるだろうと考えておられます。

そんな延東さんの山をお客様に見ていただき、延東さんに山の中で解説をしていただき、お客様は、すごく喜ばれます。そこに宿る思いとか背景が分かる森の見え方がまったく変わってきます。木はただの材料ではなく、それを育ててきた人の想いがそこに宿つているというのを、多くの人に伝えていかなければなりません。

伐採から始める！親子でつくる
ヒノキ学習机づくりプログラム。
今年は11月13-14日(1泊2日)
で延東さんの山で伐採工程を実
施。机の完成は翌年3月となり
ます。

森をつくるって、 いう価値観。

西栗倉では「伐採から始める！親子でつくるヒノキの学習机づくりプログラム」ということをやっています。山主さんの「次の世代へ」という想いがちゃんと報われるには、木が切られてそれが製品になって長きに渡って使われることと、山主さんの想いが木材の使い手の方にも伝わるということがとても大事だと考えています。

秋に机になるヒノキの伐採を行います。今年の山主さんは延東さん。延東さんの山で木を切って、参加するご家族に伐採から立ち会ってもらいます。学習机づくりのプログラムその他、山で木を伐るところから黒柱を作るといふプログラムも今年の秋にやる予定です。

「次の世代へ」という山主さんの価値観と、「次世代まで使える大切な机や家を」というお客様の価値感をうまくオーバーラップさせながら、森と暮らしを繋いでいかなければなりません。

前の世代がどう生きてきたのか。 解らない世の中になってきている。

戦後苦勞をして頑張ってきたおじいさん達が山にもいるし、都会にもいる。苦勞の積み重ねがあって、それが次の世代へパスされていく。そういうことをもつと解ってほしいと思うているおじいさんたちは都会にもたくさんいると思う。家を建てようとしているおじいさんが孫を連れて伐採ツアーに参加してもいいと思います。親が子供のことを、孫のことを思うっていうことは昔からずっと変わらなくて、そういう人としての基本的なところに立ち返っていきけるような機会を西栗倉から提供していきたいと思っています。

単に山を育ててお金儲けしようっていうっていうことではなくて、次の世代を考えて山を育てるといふのが日本の森づくりです。日本人は「家」を基本的な価値とし

て持っていたから次の世代に引き継がれていったけれど、今はそうもいなくなっている。持続可能とか環境とかいろいろ言われていますが、世代を超えて森を作っていくという価値観をちゃんと残していくことがすごく大事だと思います。家というものがあまり大事にされなくなって、世代を超えて森を守っていくことが意味を持ちにくい世の中になって、経済的に合わないっていうことが、それに拍車をかけてきました。

お盆はご先祖様を敬う大事な行事。西栗倉では、護岸工事がされてしまつてハシゴをかけないと降りれないような河原で、今でもおじいさんおばあさんたちがお盆の行事を行います。心理学者の河合隼雄さんも言ってるんだけど、江戸時代が二五〇年続いて安定した社会の中で、ご先祖さまを神格化して、家を守っていくという価値観をつくってきた。それが今、重視されない中で、どうやって繋いでいくかという課題があるのです。財産と技術と想いが一緒に子や孫へと受け継がれていくことにはもう無理があるかもしれません。しかし「次世代へ」という想いを、なんらかの形で誰かが受け継いでいかなければなりません。

